

TOPICS

サマーサイエンスキャンプ2008の開催

平成20年7月30日(水)から8月1日(金)の3日間、サマーサイエンスキャンプ2008を動物衛生研究所(つくば)で開催しました。同キャン



プは、(独)科学技術振興機構の主催で、各地の大学、研究機関が高校生を受け入れ実施するものです。当所へは例年、全国から多数の参加希望が寄せられますが、8名の高校生が選考され講義・実習に臨みました。今年プログラムの次のおりです。初日：開講式、業務説明、講義実習「マウスの体内構造の観察と免疫系細胞作出」、懇親会

2日目：講義実習「家畜の臨床検査、生化学検査」

最終日：講義実習「光学顕微鏡と電子顕微鏡で観る病原体の感染」「検出された免疫系細胞の観察」、まとめ、閉講式

これらの実習に対して3名の責任者をはじめ総勢22名の研究者が講師を担当しました。参加者は、見慣れない研究所内の雰囲気のためか緊張した様子でしたが、講師の声かけにより落ち着き、器具の操作に慣れるにつれ、積極的に実習に参加していました。最終日まとめの時間には、活発な質疑応答が繰り返されました。(情報広報課)

岐阜大学大学院連合獣医学研究科の施設見学

平成20年8月27日、岐阜大学大学院連合獣医学研究科の教職員、大



学院生56名が来所しました。同研究科は帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学、岐阜大学の4大学の連合大学院で、毎年、大学院1年生を対象に夏期に特別講義を行っています。当所は平成16年から同研究科の連携講座となり、現在、研究員6名が客員教授、準教授として3講座を担当しています。平成

20年度の特別講義が8月25～29日につくばの農林団地で開催されたことから、講義の一環として見学に訪れたものです。当日は短い時間でしたが、研究本館の他、所内を巡り動物衛生高度研究施設、病態生理棟、SPF動物実験棟等を見学しました。また、夕方から当所の職員、研修生との懇親会を研修棟中庭で開催し、交流を深めました。この場をお借りし、特別講義、施設見学、懇親会等にご協力頂いた関係者に感謝致します。(研究管理監)

「バイオセーフティに係わる教育訓練」の開催

平成20年7月28日(月)、当所講堂において、動物衛生研究所微生物等管理要領の規定に基づき、微生物等取扱従事者を対象にしたバイオセーフティに係わる教育訓練が開催さ



れ、職員、契約職員、研修生など143名が参加しました。講師を国立感染症研究所バイオセーフティ管理室の安藤秀二先生にお願いし、「バイオセーフティ概論と微生物実験室の安全管理」と題して、2時間に及ぶ熱心な講義と質疑応答が行われました。昨年改正された感染症法による特定病原体等の指定により、病原体管理は自主規制(自己管理)から国の管理への関与が強化

されたこと、バイオセキュリティは病原体等の紛失、盗難、悪用、流用などを防止するための保安対策であること、バイオセーフティはバイオハザード(生物災害)防止対策であり、病原体取扱者自身が感染しない、周囲のヒトに感染させない、環境を汚染させないために病原体取扱技術(ソフト)の習得と取扱安全設備・施設(ハード)の整備が必須であることなど、豊富な経験に基づく説得力のある、また関連する多数の写真を紹介しながらの具体的な解説が行われました。

(動物疾病対策センター長)